

江源氏禮

二



Z10
77
Vol 2

部	部
番	番
号	号
年	年
月	月
日	日

彦根中學圖書部蔵



寄 贈
 明治廿貳年以降本校卒業生二百十八名
 大正 七年 六月 八日

江源武鑑卷第二

天文六丁酉年

七月

三日公方義晴公ノ二男若君誕生辰ノ刻也

後二千歳君ト云

五日近國ノ大名太刀一振ヲ以テ誕生ノ若

君ニ獻ス屋形劔頭ノ御太刀ヲ獻セラル

九日若君七夜ニ當ル依之ハ幡工御宮參供

奉人行烈多ニ依テ日記ニノセス



十三日イモウト内々公方ノ仰有テ今日吉日屋形ノ御イモウト娣女ヲ二條晴良公工嫁シ玉フ馬イモウト淵丹後守實冬澤田兵部少輔重宗兩人ヲ女佐ノ臣ニツケ玉フ南郡ニテ五百貫ノ地ヲ御娣君ニ進セ玉フ十五日龍光院殿ノ御爲ニ田上ノ報恩寺ニテ御イモウト吊アリ今日ヨリ十七日ニ至テ千部ノ經アリ進藤伊賀守貞方乾權頭吉武經中ノ事ヲ奉行ス

十八日屋形ノ御前ヨリ石山觀音工伊庭ノ入道道全ヲ御代參トシテツカハサル御曹子誕生祈ノ由ナリ廿四日目賀多伊豫守入道德元卒六十三歳同日八月朔日伊豆ノ北條氏綱工被遣シ使節山田豊後守貞兼歸國ニテ返狀ヲ奉ニ去七月十五日二官領上叔五郎朝定武州河越ノ城工北條氏綱亥刻取カケ夜軍ス上叔朝定敗北シテ

自害スルノ由委細ニ言上ス

十二日屋形御立願ノ事有テ箕浦越後守高

光ヲ山門ノ中堂藥師工御代參ニ被遣是ハ

當年疫病ニテ國民多死スルノ故ナリ

同日和田源内左衛門ヲ苗麻ノ藥師エツカハ

サル都テ當年疫病ニテ死スル者江州ノ内ニテ

三千七百人ナリ

廿四日當年初テ佐々木ノ官臨時ノ祭礼ハ

二ル蒲生郡野洲郡二郡ヨリ祭礼ノ騎馬ヲ

出ヘキノ由被仰付依之旗頭ノ面々美ツクス
善ヲツクス

九月

三日屋形ノ伯父定頼ノ御煩ナリ依之長樂

寺ニテ千部ノ妙典アリ近藤若狹守宗武奉

行ス

八日長樂寺ノ住僧口論シテ忽及喧嘩僧九

人當坐ニ死ス

十五日夜觀音寺ノ下馬ニテ野村主膳正ト

高山五郎次郎ト先後ノ争ニ依テ喧嘩ニ及フ
高山當坐ニ死野村ハ數箇所痛手負今胃子
ノ刻ニ死ス彼下人四十一人疵ヲ負當坐ニ
死スル者三十二人ナリ

廿五日志賀郡衣川山ニ天神ヲ勸請アル宮
中ノ奉行ニ和田兵部少輔貞光ヲ被仰付
廿九日志賀ノ唐崎ノ宮ヲ造營シ玉フ奉行ハ
永田民部少輔貞兼ヲ被仰付

十月

五日佐々木ノ官ニテ護摩ヲ被仰付山門尊
光法印今日ヨリ七日ノ間彼修是ハ屋形ノ
御病氣ノ御祈ナリ

九日京極ノ二男形部大夫頓死ス三十一歳
十七日屋形上洛廿一日ニ御歸城今日伊賀
河合安房守實之病死ノ由ヲ言上ス年來御
旗下ノ人夕ル故ニ屋形甚悲ニ玉フ

廿四日比良山ノ西ノ峯ニ愛岩ヲ御勸請アル
屋形去夜不思儀ノ夢想ニ依テナリ

十一月

二日京都六角ノ御館ニ付ヲカル三井豊前守
方ヨリ公方御不例ノ由言上ス依之屋形今
日上洛例ニ替テ旗頭六人并組共ニ被召連
目賀多相摸守長俊馬剱遠江守實綱和介越
後守信方和田中書丞貞繩茂井左近將監長
家伊庭民部少輔實宗

右六人ハ江州旗頭四十六人ノ内ナリ
十六日公方御不例快氣此故ニ今日屋形江

州ニ歸城午刻大洪水野洲ノ河堤ヲコス村
三箇所水ニシホル

廿一日石山ノ住僧ヨリ言上ス去夜子刻ニ
勢多橋下一人ノ女水上ニウカミテ手ニ火ヲ
持テ橋ヲヤカントシテ終ニ水中ニ入ノヨレ
ヲ申ス

廿三日栢原上菩提院焼上ノヨレヲ言上ス

廿八日ヨリ廿九日ニ至テ雪降ル一文二尺

百年以來江州ニテハナキノヨレヲ云

百廿十二月

四日去月大雪ニテ當城鎮守觀音堂回廊破
損ス依之池田孫十郎ニ今月中ニ成就可致
人由仰付ラハ大工三百人ヲ以テ廿日ニ造
畢ス屋形甚喜悅シテ池田ニ蒲生郡ニテ三
百貫ヲ玉ル
六日午刻地震又大彗星出ル同廿日ノ夜ニ
至テ漸失ス
九日河内國ヨリ早馬ヲ以テ言上ス若江ノ

城主若江下野守兼俊逆心ヲ仕近邊ヲ燒拂
由ヲ言上ス是屋形ノ旗下成ル故ニ公方ノ
御下知ヲ請クルニ不及箕作義賢ヲ大將トシテ
七手組ノ衆目賀多馬淵伊庭三井三上落合
池田等ヲサレソヘ一万八千騎ニテ河内ニムケ
ラル義賢今月十日ニ江州ヲ立テ十三日ニ
彼地ニツキ備ヲナス下野守父圓休八十餘
歳ナルカ城ヲ出義賢ニ向テ降參ス其言ニ
曰百姓等守護ヲカルレムルニ依テ愚息下野守

彼ヲ討ウツント存ゾクルカ故ユニ如此コトニツタク屋形ニタイシ
恨ウラミナキノ由ユヲ云イフ義賢先江州エ石田木工助
ヲ以ヨテ此コノ旨ハチヲ言上ス屋形ヨリ進藤武藏守
息小太郎後山城守ト云ヲ被遣サレタ若江下野守父子
ヲ高野山エ追籠ツイコラレ若江ノ城ヲ堀江河内
守時秀ニアツテラトキヒテル

十八日三上美作守實重病死行年六十歳

天文七戊辰年

正月

朔日ヨリ十四日ニテ例年如ク御作法記ニ
及ツハス

十五日御旗ノ祝義今年ハ三上美作守卒スル
ノ間御旗ノ櫓ヒラヲ田上甲斐守ニ御字ヲ玉ツテ

實國ニナサレ彼櫓ヲ御國間ノ床ニカサル

十八日佐々木官御社參供奉ノ次第例年ノ

如ク不及記

廿日堅田ノ浦ヨリ琉璃ノ壺ヲ海中ヨリ引

上ル磯初五郎三郎宗清是ヲ上ル即屋形壽

山左近勝重ヲ以テ公方義晴公ニ獻玉フ今
義甚御自愛ナリ

廿八日ノ夜馬淵源太重細力館ヨリ火出テ

侍屋數七十二間寺社十二箇所町四十二町

戌ノ刻ヨリ明ル卯ノ刻ニテニ焼失ス

二月

七日屋形ヨリ今度火災ニ合タル者共ニ山

山ニテ分限ニ隨テ竹木ヲ玉ル

八日長光寺ニテ今年ヨリ初テ如來誕生會

次被仰付奉行ニ片桐土佐守實貞ヲツカハ

サル

廿一日伊賀ノ服部伊賀守實詮去廿五日六

十三歳ニテ卒スルノ由告來遺物ニ屋形工具

道士カ觀音ノ繪ヲ進上ス屋形年來ノ奉公

ヲ思召御悲不尋常彼繪ヲ以テ其作山ノ峯

ニ一宇ノ堂ヲ御建立有テ新觀音寺ト額ヲ

ウキアカメ玉フ彼繪ハ服部カ家ニ代々相傳

レテ希代ノキスイ多キヨレナリ

三月

三日佐々木官御祭礼例年ノ如ク屋形病氣

ノ義ニ依テ御社參十ニ其作義賢例年ノ如ク

襲東ニテ社參シ至フ

同日御一門ノ面々曲水ノ宴アリ

七日今日石清水ノ臨時ノ祭ナリ依之平井

石見守昌綱ヲ御代參ニ被遣

八日公方殿下ニテ阿波助次郎ト畠山修理

大夫義忠ト喧嘩ニ及フ助次郎ハ當坐ニ死ス

畠山三箇所疵ヲ負依之畠山妙心寺ニ入ル

其意旨ハ畠山ノ娘ヲ阿波助次郎内々所望

スルニ高木ノ義弘へ嫁ス是ヲ以テ助次郎恨

ヲフクムノヨレナリ

十四日挑井民部少輔輝重力息源五一通ヲ

以テ公方エ言上ス是ハ父先年遠流セラレ

配所ニヲイテ死ス當年北五年ニ當テ彼息

源五如此公方甚志ヲカンニ近習ニ召加至フ

廿二日洛西ノ法住院御病氣ニ付高官飛驒

守ヲ被遣是ハ屋形ノ一族十リ
廿八日午刻大雨甚クシテ野洲川ノ堤キレテ
戸田ノ郷津田ノ郷幸津河ノ郷民屋九百間
水ニヲホル近年トキ大水ナリ

四月

二日今川五郎氏親ヨリ使節アリ來五月上
洛ノ義ヲ窺フ屋形ヨリ返書アリ先延引可
然ノ由ナリ近年義親公方ノ御氣色不好ニ
依テ如此

十三日錦織民部少輔常義ニ志賀郡ニテ千
貫ノ地ヲ玉ル是ハ新羅三郎廿二代ノ孫十リ
屋形常ニアハレ三ヲ深クシ玉フ人ナリ
十九日甲斐ノ武田信虎ノ伯父信國甲州ヲ
退江州ニ來ル屋形ツヨク此人ヲアハレム後
長濱形部信實ト申ハ此人ナリ
五月

五日佐々木官祭礼屋形并箕作義賢八幡山
義昌御一門例年ノ如ク糞束ニテ御社參次

日御能有リ
同日蒲生郡上野洲郡上毎年童子ノ石打合
アリ當年ハ成人ノ者出テ太刀打ニ成テ雙
於死人百三人此旨ヲ屋形聞召テ堅ク禁メ
至ヒ來年ヨリ八十五以下ノ童ノ外一切不可
立出是ハ武ノ家ニアラシ童ニ幼少ヨリ合戰
ノ思ヲシラセシカタメナリセウブ切ト云ハ是
ナリ何ノ意旨ナクシテ人ヲ害セシヤトテ一郡
一郡ニ制法ヲ出サル

十六日千葉形部少輔清胤庶子ノ胤胤ニ所
領ヲ押領セラレ國ニ居住シカタキニヨリ當家
エ來リ今日初テ登城ス後志那ノ形部ト申
此人十リ三百貫ヲ被下此人ハ千葉忠常曰
リ此一代ノ孫ナリ
此三日千葉形部少輔清胤重代ノ夕下霜ト
イフ太刀ヲ屋形ニ進ス屋形不請千葉重代
何ノ他家ニアツテ用ナシ其孫々ニ傳テコソト
テ返シ玉フ彼太刀ノ作ハ貞宗ナリ

六月

三日崇光院ノ御吊アリ坂本來迎寺ニツイテ

千部ヲ被仰付黒田大學助宗綱奉行ス是ハ

屋形ノ祖母三木政知公女ナリ

六日材井越中守貞成卒ス四十三歳

十四日公方第三ノ御姫君九歳疫病ニテ逝

去シ至フ

十八日徳大寺大官卒ス五十三歳

廿八日雲州ノ屋子ヨリ須佐越後守ヲ以テ

重代ノ藤壺ト云太刀ヲ屋形ニ獻ス此太刀ハ

源頼朝郷ヨリ出雲ノ元祖義清ニ下シ至石

橋山合戦ノ時モ佩タル太刀ナリ

七月

六日屋形ノ御先祖秀義年忌ニ當ル長命寺

ニテ万部妙典アリ朽木民部少輔植綱高嶋

越中守實綱奉行ス

九日朽木植綱カ家人平野源八ヲ事ノ子細

アツテ高嶋越中守是ヲ討ツ依之朽木ト高

嶋大キニ不和ニナリ既ニ合戦ニ及ニトスルノ
由今日長命寺ヨリ言上ス屋形聞召兩人ヲ
召寄領内ニヲレシメ大原伊豫守春綱坂田兵
部高秀兩人ヲ經中ノ奉行ニ被遣
尤一日比良ニテ八講アリ是ハ當年初テ被
行毎年ノ八講ハ各別ノ義ナリ

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

八月

四日志賀郡雄琴ノ庄ニ新城ヲ建ラル是ハ
京都上洛ノ刻休息ノ御爲ト云御下心ニハ山

門ノ惡逆アラス時ノタメト見ヘタリ同郡小塚
山ノ城ヲ破テ今雄琴ノ城ヲ建ラル小塚山
ノ城ハ昔日公方義高公ノ御城ナリ義高公
大永六年天下延乱ノ時此城ニ移玉ヒシナリ
尤日山門慈惠大師ノ廟ヲ高嶋郡中村ノ庄
ニ建ラル屋形甚此大師尊三玉ノ故ナリ慈
惠大師ハ生所高嶋郡中村ナリ如此又元三
大師トモ申奉ル彼堂ノ奉行朽木左兵衛尉
宗綱ニ被仰付

崇徳 九月

三日近衛植家公江州觀音城工移リ至ニテ

五日植家公屋形御同舟ニテ竹生嶋へ渡リ

至ヒ今宵彼嶋ニ宿シ玉フ近衛植家公御詠

哥有リ

七日近衛植家公上洛屋形ヨリ馬淵因幡守

ヲ道中馳走ノ爲ニ被付

北日日野蒲生忠次郎氏定カ女房ヲ野狐ニ

トラレ已其女房ニカワリ此年ニテ三年氏

定ニ千キリヲナス今月十八日彼女房本身ヲ

アラワシ野狐ト成テ去ノヨシヲ今日蒲生氏

定カ方ヨリ委細ニ言上ス息蒲生忠三郎ハ

彼狐ノ子ナリ希代ノ事ナリ本ノ氏定カ女

房ハ目加田カ女ナリ何方ニカ行クニ終行

ヘヲ知ストイフ

十月

五日伊吹山ノ權現堂御當家十六代蒲高ノ

時建立ノ儘ニテ終ニ造營ノ義ナシ依之今

度造管ノ義ヲ今日北郡ノ旗頭衆ニ被仰付
テ六日ヨリ事初メス
十五日屋形京極ノ亭ニ移リ玉フ三日江北ニ
逗留彼亭ニシテ真獨子孟子告子篇ヲ讀
時ニ和哥一首ヲツラ子玉フ
利欲ニハ心ヲヨクニシク人ハ身ハウツ蟬ノアルニナキヤト
京極是ヲ真獨子ニ命シテ一卷ヲ作ス即彼
篇ノ内學文之道無化求其放心而已矣ト云
ヲ哥ノ題トナシ又事多ニ依テ日記ニノセス

十一月
八日延曆寺ト比良山ト宗論ノ義有テ山門
ヨリ大衆八百人夜ウチニ入比良ノ堂舎北
七箇所ヲ燒ク比良ノ衆徒四十八人討死ス
山門ノ衆徒三十人討死ス此由田中坊貞成
カ方ヨリ早舟ヲ立テ觀音城工言上ス今日
御評義アツテ山門ト乾河内守盛國ヲ遣使
比良ト澤田兵部少輔重宗ヲ遣使爭論ノ旨
ヲ糾明シ玉フ

十八日今度山門ト比良ト爭論ノ義京都ニ
達シ天台座主青蓮院ノ御門主江州ニ殺テ
屋敷ト内意有テ今日山門比良和睦ス
廿三日京極家ノ居城炎上ス
廿九日大津町四十二町雷火ノ爲ニ焼ク
十二月ノ身八歳四十八人
二日近藤若狭守宗武卒行年五十三歳
五日近藤宗武實子ナキニ依テ彼後家は
十ヶキテ誤上ス仍テ澤田兵部少輔カニ男

ヲ彼後家ニ玉ヒテ中枝ノ症ヲ被仰付
十八日觀音城ノ鎮守工御社參例年ノ如ク
廿日ヨリ晦日ニ至テ御一門并旗頭ノ面々
歳末ノ礼アリ
廿八日佐々木宮御社參供奉次第例年ノ如ク
御社ニライテ大神樂アリ
天文八年
正月
朔日ヨリ十日ニ至テ出仕ノ面々例年ノ如ク

十一日屋形上洛箕作義賢八幡義昌同上洛ス
廿日屋形江城ニ歸坐八幡義昌今度四品ニ
任ラレ玉フ尚公方御内意ノ事有テ在京レ玉フ
廿三日大雪酉刻ニ止ム
廿八日河内國若江ノ城主堀江河内守時秀
登城ス國俊ノ太刀ヲ獻ス屋形時秀ニ命シテ
曰堀江ハ當家ノ庶流ナリ家紋ヲ免レ玉フ是
ヨリ堀江家ニ四目結ヲツクル
二月

八日長命寺屋寺ヨリ火出テ本堂ニ至テ一
宇モ不殘炎上ス
十六日地震阿弥陀寺ノウチ御影堂破倒ス
十五日江州ノ八幡ノ宮震動ス依之屋形ヨリ
大神樂ヲ被行
十九日若狭國粟屋右京方ヨリ白馬ヲ屋形
ニ獻ス八寸ノ馬ナリ名ヲ白浪ト云大夫
廿四日公方愛宕山御參詣相從フ大名ニハ
一色左京大夫義宗山名兵部少輔義重細川

修理大夫晴元畠山修理大夫義忠今川形部
大夫義元佐々木右衛門督義賢佐々木左馬
頭義昌武田大膳大夫信政赤松左京大夫晴
政御近習ノ面々公記ニ不及屋形惣勢打立
テ後午下刻ニ登山ス公方山ニ三日ノ御逗
留ニ日計他ノ入太御ノ宮棟樑ノ崩壊ニ
廿九日二條ノ御所ニテ御能アリ公方ヨリ
國大名ニ太刀一振ヲ玉ル

八日三月十日晴日火出々本堂ニ至テ一

四日ヨリ十四日ニ至テ大洪水江州ノ海九

合ニ成ル

十七日今日勢多ノ砂普請ヲ被仰付大津丰

膳正清宗奉行ス

十九日勢多ヨリ飛脚到來ス今朝卯下刻ニ

人夫三十一人水中エ一度ニ引コムノヨリ言

上ス寔希代ノ不思義ナリ

廿七日雲州ノ屋子義父今月十三日卒ス屋

形工子息實父ヨリ父ノ遺物トシテ顔輝力

鬼神ノ繪ヲ進上ス此繪ニ付テ希代ノ義アリ
リナテ一書ヲツヘラル
一國ニ兵乱有時必此鬼神眼ノ内光ル事
一風氣ノ者ニ此繪ヲニスルニ必其病氣ヲ
失フ事
一國主國ノ政ニヲコタリ有ル時此鬼神面
目朱ノ如クニ成事
此外種々ノ事ヲ書付ル日記ニ略之屋形甚
其人ヲ惜ニ玉ヒ此繪ノ一書ヲ見玉ヒテ曰鬼

神ニ事ヲ見ルニテモナシ人間一生ノ善惡方
寸ノ内ニ有テヨクシル物ト仰玉フ

四月

五日朽木民部太輔植綱重代朽木丸ト云太
乃又進獻ス是ハ先祖朽木出羽守義綱ヨリ
傳來ルノヨシナリ屋形仰ニ目是ハ朽木家ノ
重代ナリ子孫ニ傳ヘラレヨトテ植綱ニカヘ
アタヘ玉フ
十四日屋形多賀ノ御山ニテ麻ヲ狩ル一身

二頭ノ廉ヲトル希代ノ事ナリトテ公方エ
獻ス其後主上へ上ルノ由ナリ

十一日若狹ノ武田信政工貞頼ノ御息女嫁

玉ヲ西片左近右衛門ヲ女佐ノ臣ニツケ

玉ヲ實ハ太原高保ノ女也

十八日京極三郎高勝卒ス遺物ニ虎風ト云

太刀玉摩詰カ山水ノ繪ヲ屋形ニ獻ス屋形

甚愁傷不常

廿三日田上報恩寺造營ノ義ヲ野村丹後守

ニ仰付ラル廿四日ヨリ事初ス

右此寺ハ昔日源頼朝卿善提所ナリ即ニ品

ノ證文アリ

廿五日伊庭ニテ犬追物アリ委細ノ事記ニ

アタハス

廿九日今日江南江西江北江東ノ面々代々

ノ證文ヲ被改記録所ノ日記ニノせラル

五月

五日佐々木宮祭礼例年ノ如シ

十二日江州一國ノ浦々ニテ引アミヲ止メ
ラレ堅田山田ノ二箇所へ仰付ラル今日御
一行ヲ堅田山田ノ名主等ニ被下

十五日勾ノ御所御普請ノ事初有青地紀伊
守秀實奉行ス

廿五日高嶋郡ヨリ廿九年以前ニ天狗ニトシテ
レタル者古郷ニ歸テ希代ノ事ヲ語ル今日高
嶋越中守方ヨリ觀音城工彼者ヲサシ上ル
屋形彼者ヲ御國ノ間ノ庭中ニシテ馬淵源

意齊ヲ以テ事ヲ問玉フニフシキノ事ヲ語ル
其後高嶋へカヘシ玉フ後八行ヘナクテニス

六月

三日箕作山普請初有前ノ城ニ方四町ヲヒ
口夕建部左近信勝山田掃部秀成奉行ス

十日公方鞍馬寺ニ參玉フ二日彼山ニ御延
留屋形ハ龍華越ニ大原ニカ、リ彼山ニ入玉フ

當年京都ニ有合國ノ大名小名不殘供奉ス
十日勞多ノ橋ヲ造へキ由永田右近重秀ニ

仰付ラル此橋當年ニ至テ廿一年コラヘタリ
十七日雄琴宮造營アリ和田兵内左衛門貞
秀藤井豊前守貞房奉行ス
廿三日今上帝御惱依之諸社へ奉幣使ヲ被
五國々ニシテ大般若經ヲ修ス
廿七日屋形石山參詣シ玉ヲ大津ニ四月逗留
七月
八日京都ヨリ上使アリ公方北山ノ御遊ノ
義ナリ御使ハ中西形部少輔晴秀依之屋形

上洛廿三日ニ江東ニ帰城
十九日比良ノ大光院ヨリ火出十七坊焼失ス
廿一日越前ノ朝倉彈正忠ヨリ使節アリ大
陽寺栗毛ト云名馬ヲ進ス一日ニ三十里ヲ
馳スルコトナリ屋形甚御自愛
廿五日若狭國小濱ニ三頭一身ノ子ヲ生ムノ
ヨシ武田家ヨリ言上ス前代未聞ナリ
八月
十日公方近國ノ大名ヲイサナイ泉州サカイ

ノ濱ニアソヒ玉フソレヨリ紀州和哥ノ浦ニウツラセ玉フ

十二日細川六郎三郎頓死ス未明ナリ

十七日大雨洪水江州ノ湖七合ニ蒲ル河内

國水ニ流ル村都テ七十箇所ナリ

元六月公方紀州ヨリ御歸洛屋形今日江東

ニカヘル

九月

二日一國子ト云者江東ニ來ル即屋形彼者

ヲアワレム元來一國子ハ大明全羅道ノ者ナリ

日本渡テ神道ヲ學フ今日屋形ハ心善要使

法ト云事ヲ傳フ屋形彼一國子ニ鳴絃ヲ傳

玉フ

十日越國人末平寺當住今度上京ノツイテニ

江東ニ來テ今日登城屋形甚賞シ玉フ五日

觀音城ニ滞留ナリ

十三日屋形觀音堂ニ移リ玉フ永平寺ヲ御

同道又竹生嶋ノ妙覺上人山門ノ正覺坊僧

正其次ニ入堂シテ屋形永平寺問曰如何是
此景答曰清風白日又問曰如何是今日事答
曰任有任無此後數刻法問アレトモ日記ニノセス
廿六日多賀社造營ノ事ヲ池田丹後守ニ仰
付ラルル今月廿八日ヨリ其事ヲ初ハ大伽藍
故ニ數年ヲ經ヘキノヨシヲ池田言上ス

十月

五日大風比良山門ノ大木多吹倒ス三上社
破倒ス

十日三上社造營ノ義ヲ木村佐渡守貞景ニ
被仰付番神ノ其一ナリ
廿五日比野宮大破ニ及フ依之公方ヨリ上
野民部少輔晴光被仰付今日ヨリ事ヲ初ル
廿九日伊豆國ヨリ東ノ國々疫病ニテ死スル
者千ニタニ三千テ其香國土ニ滿クテ尚病死
スル者絶サルノヨシ其國々ノ守護ヨリ今日
言上ス

八月十一月

八日久徳左馬允光成ヲ常陸ノ佐竹へ被使
十四日當家ノ流々ヲ改ラレ國々ノ庶流エ
被觸金泥ノ系圖ノ卷ニ被入
廿五日當家人御先祖鎮守府將軍扶義公御
年忌ヲ被吊田上報恩寺ニヲ依テ千部ヲ今
日ヨリ初ラルル
大正十二月宮内省
十二日大原丹後守貞綱ト寺田掃部介盛時
ト所領サカイメノ公事有テ今日屋敷直ニ被

聞之寺田非義ニ依テ改易ニテ長光寺ニヲ
カル
廿五日猶崎越前守實春歳末ノ御礼ニ上京
又屋敷不例ノ義アルニ依テ如此
廿八日御舎弟義昌ニ青地ノ荘ヲ玉ル
天文九年
正月
朔日天氣快晴御作法例年ノコトシテ大
十一日屋敷上洛十七日ニ江城ニ歸城今月

下旬ヨリ天下大疫ニテ隻ニ至ル死スル者數
ヲ不知依之公方ヨリ國々ニヲイテ大般若
經ヲ讀ヘキヨシ其國々ノ守護人ニ被仰付
廿四日天ニ赤キ氣立後ニ黒ク成未申刻ナ
小廿八日ニ至ル
二月
八月妙心寺燒亡堂塔不殘
十一日大原寂光院ノ屋上人妙海九十七ニテ
化ス是ハ屋形ノヲハナリ

十九日關東ノ晴氏上洛江東ニ至テ三日鳥
本ニ逗留屋形ヨリ目賀多ヲ以テ晴氏ヲ觀
音城工招請シ玉フ
廿八日公方ノ御連枝北山ノ麻苑院殿江東
ニ移リ玉テ三月八日ニテ御逗留
三月
八日麻苑院殿歸京屋形高宮備中守秀重ヲ
サレソヘラル
十一日地震申刻竹生嶋ノ西ノ岩海ニ入ル

廿二日幸津川ノ新河大明神崇リ有テ彼在所ノ人民甚シクソレツヨキニ依テ吉田殿ニ告穀聞ニ達シ正一位ノ号アリ仍テ彼明神イカリヲ止玉フ

三月四月六日三月八日

三日山門ノ惠心院僧正觀音城ニ入來屋形甚賞シ玉フ屋形阿字ノ本躰ヲ尋玉フ惠心院先阿字本躰ノ文ヲサツケ奉ニトテ即座ニ書玉フ關東ノ書納ノ上

五日我覺本不生當平ヨリ金胎ノ

出過語言道

遠離於目縁

氣諸過得解脫

夜知空等虚空

命阿毘羅咩欠寂極大秘法界躰也

右此文ヲ書テ屋形ニサツケ玉フ密法ナレハ

屋形傳受ノ御事ハ日記ニハノセス

九日大洪水民屋破倒ス常樂寺ノ本堂ノ西

ノ口サレニ雷落テ塔舎多焼失ス
同今日午刻公方ノ御所南ノ門ニ雷ヲチテ
御殿三箇所焼上ス

廿四日公方愛宕山ニ参玉フ廿五日歸洛

五月

三日公方若君千歳丸疱瘡ハナハタレキニ依テ
近國ノ諸社へ御願アリ後義昭公ト申ハ是

御方ナリ

五日江州御社ノ祭礼當年ヨリ金銀ノ銚ヲ

渡サル都テ十二本

十五日公方ノ御姫君ヲ内々ノ義有テ今日

屋形工御輿ヲ入ラル義胤公義昭公ノ御姉

ナリ公方ノ長女ナリ上野丹後守晴重長岡

大膳大夫晴時兩人女佐ノ臣トシテ江州ニ

住ス

廿日公方ヨリ播州明石ノ郡賀古ノ郡佐用

症ヲ屋形ノ御前エニイラセ至フ

同日屋形工白浪ト云名馬山蜘蛛ト云御太刀

并ニ美作國英田勝田ノ兩郡ヲ進下シ至テ
廿七日屋形上洛今度ハ例カワツテ七手組
御一門ヲ召連テル江城ヨリ京ニ條ニ至テ
先後ノ勞打ツ、夕最ハナヤカナリ
廿八日屋形ヨリ公方へ御進物白銀二千枚
綾百卷鞍置馬十匹江州長濱諸白十樽當家
重代ノ細丸ト云太刀ヲ進獻シ至テ
六月廿八日
四月屋形御一門歸國

八月公方御不例依之諸社ニシテ讀經アリ
十七日天青筋西ヨリ東ニ至ル午未刻今日
ヨリ十九日ニ至テ消失ス
廿三日當國白髮大明神宮造管ノ義被仰付
津田權内高光奉行ス
廿九日白髮ノ社ノカニ伊勢ノ御社ヲウツ
サル晦日ニ地ナラシアリ後ニ白髮ノ岩戸ト
云ハ此所ナリ
七月

二日二條晴良公江州ニ來リ至ヒ十二日ニテ

觀音城ニ御逗留屋形甚賞シ玉フ

八日屋形晴良公工調子ノ事ヲ問玉フ晴良

公則一卷ヲ屋形ニサツテ玉フ彼御傳法ノ

書ニ曰ク

五音之大事

カ
キ
ク
ケ
コ

カ
キ
ク
ケ
コ

サ
シ
ス
セ
ソ

サ
シ
ス
セ
ソ

タ
チ
ツ
テ
ト

タ
チ
ツ
テ
ト

ナ
ニ
ヌ
ネ
ノ

ハ
ヒ
フ
ヘ
ホ

マ
ミ
ム
メ
モ

ヤ
ユ
ユ
ヨ

ラ
リ
ル
レ
ロ

ワ
ヰ
ヱ
ヰ

ハ
ヒ
フ
ヘ
ホ

カ
キ
ク
ケ
コ

上音 上音中 上音下 下音中 下音

去入

東

上平

五音喉舌唇ノ三内

ア イ ウ エ オ

カ キ ク ケ コ

ヤ 井 ュ エ ヨ

喉内

我内ハヒフヘホ

ニノスニ三ムメモ

ワ イ ウ エ オ

サ シ ス セ ソ

タ チ ツ テ ト

ナ ニ ヌ 子ノ

下 井 ュ エ リ ル レ ロ

唇内

舌内

四十余字ノ上音中音下音

上音

アカサタナハニヤラワ
四十余上音ノ中音下音

イキシチニヒミイリ井
ウクスツヌフムユルウ

下音ノ中音

エケセテ子へ又エレエ

下音

ヲコソトノホモヨロヲ

此内ニトノ字ハ下音ノ内ノ下音也ノノ

五字ハ上音ニ可用

皮骨^{ヒコウ}肉^{ニク}之三^ミ曲^{マク}

皮^ヒ序^コ破^ハ急^{キウ}

骨^{リョウ}吕^{リョウ}律^{リツ}

肉^{ニク}宫^{キョウ}商^{カク}角^{カク}徵^{キョウ}羽^ウ

右^{ミナミ}此^{コノ}位^チヲ習^{ナラフ}テ諸^{シヨ}事^ジノ位^チヲ知^シル次第^{シツ}有^リ

吕^{リョウ}上^{ジョウ}云^クハ節^{セツ}有^リテ音^{オン}ヲ持^ツ

律^{リツ}上^{ジョウ}云^クハ直^{チキ}ニシテ無^ク節^{セツ}音^{オン}疎^スニ

春^{ハル}夏^{ナツ}秋^{アキ}冬^{フユ}五^{イチゴ}季^キ之^ノ調^{テウ}子^シノ次^ジ第^{テイ}

律^{リツ}調^{テウ}子^シヲ知^シル次第^{シツ}口^コ傳^{デン}

物^{モノ}ノ地^チ躰^{テウ}ヲ知^シル次第^{シツ}口^コ傳^{デン}

息^{イキ}ヲ刷^ツ次第^{シツ}口^コ傳^{デン}

右十二月ヲ知ル口傳調子ハ五調子ヨリ
出タル十二調子也五調子ノ外沙汰其説
ハ色色ニ有共時ノ調子ニハスキス
 十二時之調子之次第

子呂	盤涉調	陽冬定
丑呂律	神仙調	陰
卯呂律	鸞鏡調	陽
辰律	雙調	陰春定
辰律	鳧鐘調	陽

巳律	上無調	陰
午律	黃鐘調	陽其定
未呂	一越調	陰土用定
申律呂	断金調	陽
酉律呂	平調	陰秋定
戌呂	下無調	陰
亥呂	勝絶調	陰

如此雖十二時ノ調子正躰ハ五調子也其
 故ハ五姓ノ次第ナリ

五姓ノ次第

寅卯ハ木姓ハ雙調ヨリ出ル

巳午ハ火姓ハ黄鐘ヨリ出ル

丑未辰戌ハ土姓ハ一越ヨリ出ル

申酉ハ金姓ハ平調ヨリ出ル

亥子ハ水姓ハ盤涉ヨリ出ル

五姓五調子如此

一越ヨリ断金ハ神仙調鳧鐘調少ニ高ニ
平調勝絶調下無調ハ少ニ下ニ

雙調鳧鐘調

黄鐘鸞鏡調

盤涉神仙上無調

右此調子ハ五調子ヨリ十二調子ニ積分

也武家ニ軍中ニ尺八ヲ腰ニサス事ハ調子

ヲ知ラシカ爲ナリト古キ日記ニ有古ハ武

タル者ハヨク此事ヲタシナシトナリ

喩ニテ甲乙ノ調子尺八ヲ以テ知ル次第

甲之調子次第

●●●○●○
一越調 律陽

●●●○●○
斷金調 呂陰

●●●○●○
平調 呂陰

●●●○●○
勝絕調 呂陰

●●●○●○
下無調 呂陰

●●●○●○
雙調 律陽

●●●○●○
鳧鐘調 律陽

●●●○●○
黃鐘調 律陽

●●●○●○
鸞鏡調 律陽

●●●○●○
盤涉調 呂陰

●●●○●○
神仙調 呂陰

○●●○●○
上無調 呂陰

乙之調子次第

●●●○●○
一越調

●●●○●○
斷金調

●●●○●○
平調

●●●○●○
勝絕調

○●●○●○
下無調

雙調

鳧鐘調

黃鐘調

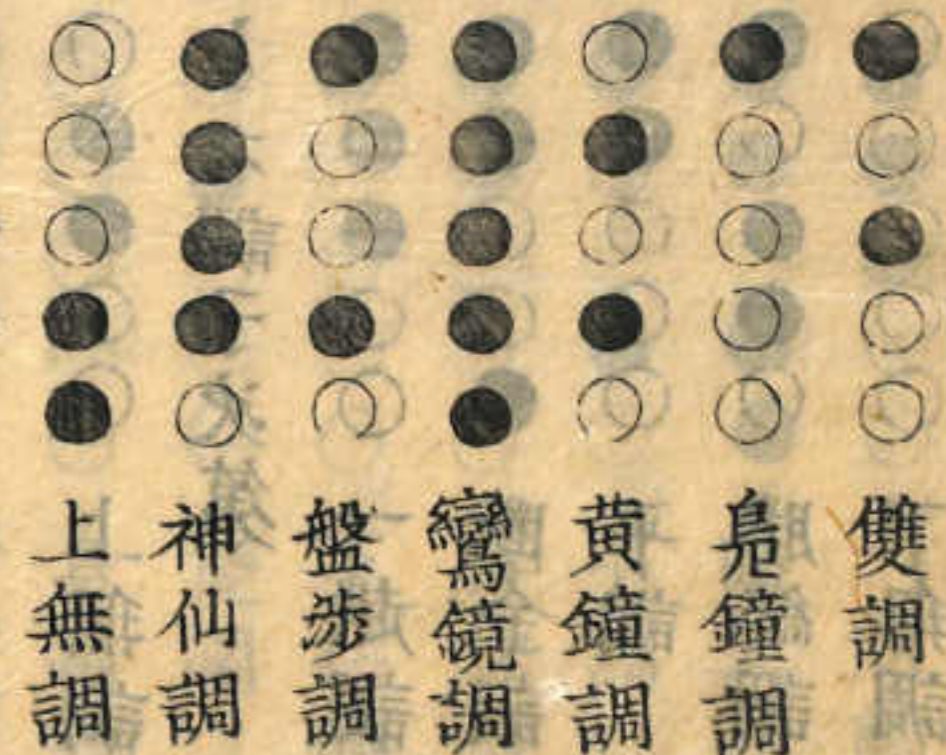
鸞鏡調

盤步調

神仙調

上無調

右此調子一噓ノ内ニテ知ル也名アズキナクシヨクハ黑穴塞白穴空ル口傳有



宮商角徵羽ヲ以テ知ル次第調子ノ灌頂也

土用一越調宮ハ齒ニ當テ噓ヲ突出テ能ク

調子ニ合ハ一越也

秋平調商喉ニ當テ噓ヲ突出テ調子ニ合ハ

平調也

春雙調角ハ口ヲ空テ噓ヲ突出テ調子ニ合ハ

雙調也
雙黃鐘調徵舌ニ噓ヲ當テ突出テ調子ニ合ハ

黃鐘也

冬盤涉調羽鼻ニ喚ヲ當テ突出シ調子ニ合ハ
盤涉也

雙能々喚ヲ吟シテ調子ヲ知ルヘシ常ニ
右能々喚ヲ吟シテ調子ヲ知ルヘシ常ニ

春調子ヲ吹テ宮商角徵羽ヲ知ト云事アリ

平可勒

調子之示之事

宮 (サタニル) (スクナリ) (ソコナワス) (ハタラク) (キナリ)

商 (ツ、ク) (ヒサシク) (カウリヨク) (オホキナリ) (フトシ)

角 (サタニラス) (モノイ、) (キル、) (ヒラク) (ムツカレ)

徵 (カワル、) (タニラス) (ヤツル、) (ヌクル)

羽 (ノカレス) (ハタラク) (コヘナレ) (イロナレ)

傳曰 于シノ方シノ方ヘハ高ク

支甲ノ方甲ノ方ヘハ下ク

天竺ニテハ我 (ヒラ) (ク) (ト用) 唐土ニテハ阿伊

宇江遠ト用 日本ニテハ宮商角徵羽ト用

右調子灌頂可秘也

大日 彌陀 藥師 觀音 釋迦

井 辛 酸 苦 鹹

脾 肺 肝 心 腎

黃 白 青 赤 黑

君音慢變 臣音長清冷 民音悲和雅 事音雄清明 物音沉細長

土勾陳門 金与 木青龍 火朱雀 水玄武



越 平 雙 黃 盤

中央 西 東 南 北

土用 日 日 秋 春 夏 冬

方 酉 卯 午 子

戊巳 庚辛 甲乙 丙丁 壬癸

坤艮 充乾 震巽 離 坎

中 章 觸 征 聚

龜 右 左 前 後

右調子卷終ル後ニ屋形四十六人ノ旗頭ニ

此傳ヲサツケ玉フ依テ日記ニノセス重々

相傳ナクシテハ知カタク

十二日晴良公江城ヲ退テ上洛後藤安藝守
 ヲ江州ヨリ京都ニテノ路次ノ馳走ニ被遺
 此外晴良公種々ノ御傳法アリ多ニ依テ日
 記ニノセヌ晴良公ハ屋形御娣ムコナル故ニ
 度々江東來リ玉フ

八月

十二日屋形ヨリニ條晴良公ハ圖竹之義ヲ
 問ニ被遺目賀多伯耆守上洛ス
 十四日目賀多京都ヨリ歸國ニ則晴良公ノ

返書ヲ上ク圖竹ノ繪有リ左ノ如ク旗頭中
 へ相傳アル惣テ屋形ハ何事ノ秘傳ヲモ皆
 國ノ頭タル者ニハ不殘傳玉フ彼圖竹ノ法

佛道中

黃鐘十二壹越調官

雙調シ

子肆

大呂十二斷金調

犯聲鳧鐘調シ

丑

異音提西

大蕨正平調商

黃鐘調シ

寅五

交鐘二勝絶調

臨梅鸞鏡調シ

卯

姑洗三龍吟調角

盤涉調シ

辰貳半

生 發心東

仲呂四

鐘及調角

神仙調

巳

壹

鞋履五身鐘調

變徵上無調

午

住 修行南

林鐘六黃鐘調徵

壹越調

未

貳

夷則七結焉鐘調

犯聲 斷金調

申

滅 涅槃北

南呂八盤涉調羽

平調

酉

參

無射九神仙調

鹽梅勝絕調

戌

應鐘十鳳音調

變宮下無

亥

肆

半

廿八日青蓮院ノ御門主觀音城ニ來リ玉ヲ

四日逗留ナリ屋形筆道ノ事ヲ傳受アリ川

曲又市澤井角右衛門尉建部戈八郎此三人

ハ江州一ノ能書也然ルニ門主彼三人カ手

跡ヲ見玉ヒテ額ノユルニ玉ヲ是ヨリシテ

江州ノ内ニテハ俗ニ三跡ト云

九月

十日山城國柵尾ヲ江州ノ岩山ニ移サル公

方ヨリ明惠上人ト云四文字ヲ主上ヘ奏聞

申サセ玉ヒテ勅筆ヲ染サセラレ今午刻入寺

ス屋敷奉行トシテ黒田伊賀守秀三ヲ被遣
十二日志賀郡雄琴ノ里ヨリ和田兵庫頭光
時言上ス其故ハ今十日海中ニ光リアリ里
人此ヲアヤシメテ見ニ一ノ佛ナリ則惠心
僧都ノ作ノヨシ申ス則彼里ニ成就光院十
云寺ヲ建ラレテ彼佛ヲスヘ玉フ其外不思義
事多日記略之ヲ

油又十月廿五日門外八呎北三人
此コロ公方松木殿ト云公家ヲ甚チヤウアイ

ナリ依之彼松木ヲ大臣ノ内ニ補任セラルヘキ
ヨシヲ奏聞アル禁中ニシテ諸卿評義アルニ
彼松木ノ家ニ終ニ大臣ヲフシタル例ナシ其
故大臣ノ官三大臣共ニカケス此義成ニシキ
ヨシヲ公方家ニウツタウ公方大ニ怒テサ
ラハ儀同ニ任シラレヨトテ終儀同ニ松木
ヲイタサレヌ惣テ東山殿代ヨリ今六代ノ公
方家ニ至ルニテ大ニ武ノ權ツヨクシテ國ノ大
名公方ノ御連枝ニツラナルホトノ人官位ヲ

進ムニイトヤスレ武家ハセメテ將軍ノ一ニ
モアリナン公家ノ面々攝家ノ御方ニテ皆公
方ノハカライナレハ宮親王ニ至ルニテ皆公方ノ
御字ヲ請テツキ玉フナリ前代未聞ノ武家人
行共ト真儒ノ者ハ甚ソレルト云此時ノ落書
權門ニ引ニウサレテメテタヤナ松ハ茶ウスノニ儀同哉
北日屋形上洛七手組供奉ス義賢ハ御病氣
ニ付テ其義ナレハ幡ノ義昌上洛ス
北九日山門ノ飯室ニ屋形菩提所ヲ建立ス

寺号大岩寺ト云屋形常ニ天台ノ法ヲ愛セ
ラル故ナリ

十一月

八日屋形京都六角ノ亭ニラカル目賀多采女
正子ハ即三郎當年七ツニ成ル今年七月下旬
名哥ヲ讀タルトテ諸大夫ニ被成ナリ彼ハ即
三郎今月三日病死ノ由父采女正秀賢カ方
ヨリ言上ス屋形甚ラシマセ玉フ

彼ハ即三郎七歳ニテ諸大夫ニ被任シ事ハ

去ル文月下八日夜洛東ノ川原ニ出テ螢ノ
飛カフヲ見テ
三岩間飛フ螢ハ波ノウツツ火カ十五
ト云發句ヲツカフニツリケハ洛中ノ貴賤己
ヲ傳ヘテモテハヤシケルホトニ今年八月ニ
禁裏江召ヨセラレテ常ノ御殿ノ御庭ニ參
ケルニ勾當ノ内侍扇ヲ出レ是ニツキ一首ヲ
ツラ子申ヘキトナリ彼扇ニ深山ノ櫻ヲ繪ニ
カケリ目賀多八郎是ヲ見テ

ヨモ千ラジ繪ニカク山ノ櫻華アフキ八風ノヤトリ成モ
上甚御氣色ヨクテ當坐ニ大夫ニ任レ玉ヒ兩
傳奏ノ御方ヨリ屋形へ此童子念比ニソタテ
尚成人ノ後御哥所寄人ニ可被成ヨシ勅意
如此冥加ニヤツキケシ今月三日病死ス前代
ニキカス希代ノ事ナリト世ニ諷ス
十五日公方江州觀音城へナラセララル北八日
ニ御歸京屋形此間ノ御馳走甚例ニナシ
十八日伊庭ノ馬場ニテ御的有公方御照覽

十八日的射手次第十五人五度宛射之

十五番

馬淵源太郎實賢 廿九歲

十四番

山内宗十郎成時 廿九歲

十三番

澤田喜太郎忠宗 廿八歲

十二番

乾次郎三郎 十六歲

十一番

和田兵吉 十四歲

十番

田中傳八郎宗秀 廿七歲

九番

植村久作 十五歲

八番

藤堂善兵衛尉實成 三十一歲

七番

方郷上洛彼十五人ノ者共先陣供奉ス彼等
父母兄弟喜悅不斜屋形モ内々ヨリ思召立
廳ノ本意トテ不常氣色ヨレ此十五人ノ者
後ハ皆諸大夫或四品三人ホル者多シ此内ニ
新將軍義輝公トテ奉公スル者三人アリ三好
逆意ノ時御所ニ有テ働下知ヌ彼三人ハ河端
高木谷口ナリ

●●●十二月●●●

五日三星并出ル今日十日ニ至ル戌刻ヨリ

前田泰大吸賣時

出東ニアリ

十八日三井寺光淨院ヨリ火出坊舎十七箇

所焼失ス

十九日岡山ニ觀音寺ヲ建立奉行永原大炊

頭實冬明ル二月成就ス屋形觀音ヲ殊更ニ

ウヤマイ玉フハ當城觀音ノ山ニテアルヲ御先

祖佐々木大明神彼佛ヲ鎮守トシ此山ニ住

シ玉フ依之今ニ至テウヤマイ玉フ

廿五日屋形上洛任從四位下行兼近江守

江源武鑑卷第二終

江源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終
終武源武鑑卷第二終

十八日三井寺
十八日三井寺
十八日三井寺
十八日三井寺
十八日三井寺
十八日三井寺
十八日三井寺
十八日三井寺
十八日三井寺
十八日三井寺



